



BRITISH-JAPANESE
PARLIAMENTARY GROUP
www.bjpg.co.uk



ウエストミンスター・パレス ツアー

中央ロビー集合後、英国議会下院(=庶民院 the House of Commons)、上院(=貴族院 the House of Lords)それぞれの会議場をご案内します。

注) 下院(The House of Commons)と上院(The House of Lords)の二つ即ち The Houses of Parliament で英国議会(the U.K. Parliament)を構成し、この二つの院を擁する建物をウエストミンスター・パレス(the Palace of Westminster)と呼びます。
この建物には会合の場として使われるロビーがたくさんあります。

[the Central Lobby]

その中で最も大きいのが中央ロビーで、会合の場、そしてパレスの分岐点であると同時に一般の人たちが地元議員に会い、「ロビー活動」をする場所でもあります。ここでまず目を惹くのがゴシック / 中世の建築様式です。パレス全体に数々の装飾が施されていますが、その中でも最も注意を引くのがヴィクトリア女王を記念そして祝福する目的で各所に施されている VR (Victoria Regina)の

シンボルです。ヴィクトリア女王はこのパレスの建設中に即位され、1852年に最初に議会を訪れた君主で、現在でも公式の議会オープニングデーには君主が出席します。

中央ロビーを見渡すと、四方に英国の守護聖人4人の像、パレス内4つの郵便局うちの1つ、そして'Strangers Gallery'と呼ばれる傍聴席の入口が見えます。

ウエストミンスター・パレスはチャールズ・バリーによってデザインされたものです。単に儀式用として作られただけでなく、実用性、連続性、統一性にも重点を置いて構築されています。左手の"Lords Corridor"へと進みますとイギリス市民戦争を描いた絵画が展示してあります。そして Lords lobby そして本会議場へと続きます。

[the House of Lords]

上院(House of Lords)は儀式を司るメインの場所となっています。王座の後ろにある豪華絢爛な天蓋は、金箔が二重に施された手彫りのものです。

この王座には議会オープニングデーに女王が座り、その横にある二つの椅子には、チャールズ王子 (Prince of Wales)、フィリップ王子いずれか次回のセッションの公式初日に女王に同行する王子が座ります。

天蓋をデザインしたピュージンが敬虔なカソリック信者であったため、宗教的シンボルが全体に施されています。

会議場の両側には正義、騎士道、宗教など様々な趣旨を描いた大きなフレスコ画があります。

この国の政治システムの運営に欠かせないのが Parties (党)です。左右両側に赤のベンチが並んでおり、ここに政権内閣そして野党が座ります。討議が繰り広げられるテーブル、そして'Woolsack' (貴族院議長の椅子) と呼ばれる大きな赤い長椅子があります。'Woolsack'は英連邦各国から集められた羊毛でできており、白色の羊毛は大英帝国中世の経済繁栄をそして織物は産業革命をそれぞれ彷彿とさせる点で歴史的に重要なものと言えます。

議会の公式オープニングは英国の統治機構を構成する全ての機関、即ち君主、上院、下院、そして司法が一同に集まる唯一の機会です。下院のメンバーは女

王陛下に召喚され、上院に入ります。女王は年に一度スピーチを行い、議会の次回セッションにおける政府の立法上のプログラムの詳細を述べます。

パレスで使用されている木材はすべて手彫りで、イギリス製オーク材をフランスワニスで仕上げたものです。

[the House of Commons]

上院を見学した後は中央ロビーに戻り、同じく廊下を通して下院のメンバーズロビーへと向かいます。このロビーはウエストミンスター・パレスの政治の中心とも言える場所で、それぞれの党のオフィスがあり、主要な党の議会での活動を管理します。

ここで印象的なのは、チャーチルやレディ・サッチャーを初めとする過去のリーダーたちの像です。

議員たちがその日のメッセージを受け取る掲示板があり、議会室のメインのドアを通り過ぎ右に行くと議員たちが投票をするロビーがあります。'No Lobby'と'Yes'のロビーは議会室を挟んだ両側にありますが、この場所は日によって入れ替わります。

投票用通路を通り抜けるとメンバーは数を数えられ、スピーカーの椅子の後ろから下院議会議室に入ります。下院のベンチは緑色で、中世議会議場の色と同じです。現在セント・ステイブン・ホールのある場所に議会議場はあり、1547年に初めて議会議場が開かれました。

ここでは与党と野党の白熱した戦いを見ることができます。特に水曜日は両党のリーダーたちが顔を突き合わせながら恒例のバトルを繰り広げます。いわゆる「首相の質問時間」です。

下院議会議室テーブルの議論の行われるところに講演用の台（despatch boxes）がいくつか置かれており、その真正面上方に一般傍聴席‘Strangers Gallery’があります。

Speakers Chairの上にはプレス用傍聴席があり、国内の報道の最も凝縮された情報源でもあります。

本議会議室を見た後、下院のメインドアを通りメンバーズロビー、そしてメンバー回廊を通り中央ロビーへと戻ります。

このツアーについてご質問があれば何でもどうぞ。

British Japanese Parliamentary Group を代表し、皆様に英国の政治の歴史を堪能戴ければ幸いです。

以上